

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502777		
法人名	医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川下		
所在地	札幌市白石区川下574番地61		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502777&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は敷地内に、同一法人が運営する病院、デイケア、介護老人保健施設があり、地域的な面においては、住宅街から少し離れた閑静な場所にあるため、のどかで広々とした自然を身近に感じることができる環境にあります。その利点を活かし、畑作業を行うことができたり周辺の散歩などは、住宅街とは一味違った雰囲気の中で過ごすことができいております。また今年は、人事労務管理面・職員のレベルアップに効果が高かったと認識しております。職員の定着率も安定しており、人事考課の実施、正職員への登用者と介護福祉士の合格者を数名輩出できたことや研修への積極的な参加等、によって全職員のモチベーションが高まり、さらに向上心を持って業務にあたるようになり、それが入居者さんが安心して生活することができるサービスの質の向上・グループホームづくりへとつながっていると考えられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットの当ホームは、同系の医療法人が経営する病院、自立支援デイケア施設、老人保健施設、自立支援介護療養所と同じ敷地内にあり、災害対策などでは全ての施設が協働体制を取れるなど、スケールメリットを十分に発揮できるよう配慮されています。万一の場合に備え、隣接する自立支援介護療養所の防火扉が開放され、避難する訓練が度々行われています。デイケアに通う利用者も多く、心身ともリフレッシュした暮らしの継続を支援しています。利用者の中には入居後、好きな囲碁に励み初段の腕前になるなど、明るいニュースもホーム全体を潤すものとなっています。これらの豊かな利用者の暮らしには、職員の弛まざる挑戦、自らを磨き上げる努力が、しっかりと支えになっていることを実感します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに掲示していることはもちろんのこと、理念カードを作成し、スタッフ全員がネームプレートの中に入れており、いつでもサービスの提供の場面で振り返ることができるよう、また実践していけるよう心掛けている。	昨年の取り組み課題であった運営理念の職員間の周知と理解については、ユニット毎に行われるミーティングで繰り返し話し合うほか、ネームプレートの裏面に明示しながら、実践の努力が日々行われています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公園に散歩に行ったり、食事をしたり、車で買い物・美容室などに定期的に行っている。	ホームの立地が住宅街からは少し離れているものの、地域との関わりを深く認識し、近くの小学校児童との交流やボランティアへの要請、また、ホームの行事案内などを行い、より地域との関わりを深めようとしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の介護予防に参加したり、運営推進会議でグループホームの理解や取り組みを町内の方や地域包括センターの方と積極的に話し合いを行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、利用者の状況やグループホームの取り組みなどを話し、ご家族からも意見が聞かれ、サービス向上につなげている。	会議は2ヵ月毎の開催が守られています。会議には地域包括支援センター職員、町内会長、利用者、家族がメンバーとなり、現況や当面の事業などを詳細に報告して意見を頂いていますが、地域の方々のメンバーが不足がちで固定化傾向が観えます。	従来のメンバーに地域の方々(例えば町内会の福祉関係の役員、婦人部の方々)を加えて、より会議内容の活発化が期待されます。また、時には病院の医師や消防署の職員をゲストとして迎え、話を聞くなど、柔軟な取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白石区保健福祉部と密に連絡を取り合ったり、札幌市白石区の管理者会議にも毎回参加し、情報交換や協力体制に取り組んでいる。	区の担当窓口から、運営の面で多くの指導を得ています。また、ホーム長が相談窓口へ出向くなど、協力関係が築かれています。今後は外部評価での取り組むべき課題を伝えながら、よりサービスの質の向上を図ることとしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より、ミーティングの時など、身体拘束について話し合い、意識するように心掛けている。	身体拘束防止に係る研修会に出席した職員の報告による学習や、マニュアルを改めて見直ししながら、身体拘束のない、また、虐待防止への実践が行われています。各ユニット及び玄関の施錠は無く開放感が漂っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの時などを利用し、虐待について話し合い、防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の度に学び、必要によって関係者と話し合いを持ち、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・体験などを通して、契約・解約などに関する不安・疑問に対して十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんには必要な時にはわかりやすく説明し、ご家族の方には面会時など、意見・要望などを聞き出すよう努めている。	利用者の話しはゆっくりと時間をかけて聞きます。また、家族からの意見や要望は、主に電話や来訪時の会話の中から聞き出し、ケアや運営に役立てています。職員は聞き流しが無いよう必ずメモをして伝達、共有しています。今後は「意見箱」の活用にも取り組む予定です。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、ミーティングなどに限らず職員の意見に耳を傾けるように心掛けている。年に数回、個人面談を行い、職員と向き合う場を設けている。	定例ミーティングの際には職員の意見が出され、運営に反映するなどして役立てています。また、年に数回の個人面談を行い、意見や悩みなどを聞き、風通しの良い職場作りをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や成果が労働条件に反映されるよう、人事考課を行っており、今年は正職員への登用を数名輩出することができた。モチベーションを高く持って働くための効果やレベルアップに十分つながっていると見える。また、勤務していて日常思うことがあれば、いつでも話してほしい。と働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力を踏まえ、事業所外の研修に積極的に参加を促している。法人内の研修にも毎回参加しており、研修後の報告会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者以外の職員は交流する機会が少なく、現在、課題の一つとなっている。今後は運営推進会議を活用して他のグループホームとの交流を図りたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・体験利用された時に、本人の不安なことや要望などを汲みとり、安心・信頼関係を得よう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・入居の段階で説明を繰り返し、場合によっては体験していただき、不安・要望を聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況をよく把握し、家族と相談しながら、より良い支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なことや昔の習慣などを教えていただいたりと、生活の中で活かしていくよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子や変化など、常に情報交換を心掛け、協力を得ながら支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との手紙・電話・外出・外泊など、定期的に行い、関係を大切にしている。	馴染みの美容室に通いながら、おしゃれを楽しんだり、買い物を楽しみ、また、家族と共に墓参りをするなど、それぞれの馴染みの関係を大切にしながら暮らしの継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の工夫・外出・毎月の散歩や行事などを通し、よりよい関係を持てるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方への面会を定期的に行い、ホームの様子を報告して、つながり・関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、会話の中でさりげなく聞き取り、さらに、ご家族より意向などの情報を得て、できるだけ本人本位となるよう心掛けている。	思いや意向は、利用者の状況、体調を考慮しながら、把握するよう努めています。その際、ベテラン職員のスキルが大いに発揮され、他の職員への伝達及び共有が図られています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面会の時など、できるだけ情報収集を行い、日常のケアに活かすようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人の残存能力は何かを見極め、生活の中で活かす工夫を心掛けている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって、今、最も必要な課題をチーム・ご家族・本人の意見を参考にし	利用者がより良い暮らしを継続するため、計画は項目が絞られ、職員の日常の介護にも良く理解できるよう作られています。毎日の介護日誌には、計画に連動したモニタリングの記載があり、計画の見直しに際して役立つものとなっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、ケアの内容を詳しく記入し、ケアプランを意識・実践できるよう、記録の間にセットしてNO.を記入している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲の中で、本人の希望やご家族の要望に対し、柔軟に対応を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園までの散歩・買い物・食事など、一人一人に合わせた支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を行うとともに、受診をご家族と一緒にいたり、報告などをこまめに行っている。	系列の病院に隣接しており、利用者の受診の利便性が高いです。従来のかかりつけ医への受診は家族が同伴しますが、事情によっては職員が同行するなど、便宜を図って利用者の健康管理をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診、または体調に変化をきたした時など、密に相談を行い、必要な医療機関への受診を早めに行い、利用者さんの健康に配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会を行い、状態の確認をし、ホームに外出・外泊などを気軽にさせていただき、関係が途切れないようにし、常に病院関係者と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢であるため、徐々に重度化へと変化することに早い段階で、ご家族と相談し、意向などを確認している。	重度化や終末期に向けた対応では、現在、看取りは行われておらず、利用開始の折に口頭で伝えていきます。体調の変化など重篤に向かう際は、医師と家族を交えて相談しますが、ホームとしての方針や指針がなく職員への共有も十分ではありません。	終末期を迎えるにあたり、ホームの行えるケアの範囲など、予めホームの方針に基づき、家族への十分な説明が必要と思慮します。このため口頭ではなく書類による確認、承諾が肝要ですので、方針あるいは指針の作成に向けた取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、その都度ミーティングで話し合い、確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、その都度ミーティングにて話し合いを行い、意識するようにしている。	災害への対応は当該ホームだけでなく、隣接の病院、老健施設などを含め、一体化した訓練が行われております。訓練では夜間想定も含め、年2回の実施が見られ、利用者は、隣接する施設へ防火扉を抜けて実際に移動するなど、安全に配慮が見られます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの生活歴やこだわりに沿った対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの人格の尊重、プライバシーへの配慮など、職員の細やかな対応を見ることが出来ます。特に言葉かけは、極く自然な雰囲気にも包まれていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを汲み取り、傾聴や共感・理解を念頭に置いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペース・体調などを考え、無理のないよう、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの身だしなみに沿った支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの好みや旬の食材を取り入れたり、一緒に料理作りを楽しみ、後片付けまでの作業を行い、雰囲気づくりで心掛けている。	利用者の手伝いもあり、食事を笑顔で食べる光景を見ることができます。職員は利用者と共に食事を取り、利用者との会話が賑やかに聞こえてきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さん一人一人の食事摂取・水分比の把握を行って、状態に合わせて食事の提供も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・晩、習慣となっており、不十分な時は一緒に行っている。義歯の消毒にも注意している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを尊重し、タイミングをみて声掛けを行い、失禁を防ぐようにしたり、布パンツ・オムツ・パッドなどを効果的に使い、衛生面に配慮している。	トイレでの自立排泄を促すため、職員は排泄のパターンを把握しながら誘導しています。トイレでの排泄、また、オムツをしない暮らしは、利用者の尊厳と自信回復に繋がるとして、職員の配慮による支援が続きます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者さん一人一人の便状況を確認し、散歩の声掛けをしたり、乳製品の摂取を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの希望に合わせた時間帯に入浴されている。	週2回～3回、利用者の希望に合わせて入浴を楽しんでいただいています。デイケアに通う利用者は、大きな浴槽での入浴も楽しみの一つとなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムに合わせた入床、起床時間とし、必要な時は声掛けを行い本人のペースを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に合わせた投薬方法をとっており、処方された薬の状況について申し送りのノートや申し送り時などに再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん一人一人に合わせて一緒に料理をつくらしたり、食器ふきなど手伝っていただき、また、畑での作業や収穫・お花の観賞・散歩等を楽しまれたり、外出（レク）先での風景や食事・買い物等を堪能されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デイケア休みの方は院内散歩を行い、20～30分はかかる少し遠い場所へは入居者さん全員で外出し、家族の方と連絡を取り、協力をいただいている。	夏季には、近くの公園への散歩で足腰の衰えを防止しています。冬季間は老健施設内の散歩や買い物、また、好みのレストランでの食事や美容室通いなどで、閉じこもり防止を兼ねた外出支援が行われています。更に年2～3回のバスレクリエーションにより、少し遠出のドライブを楽しみます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の好みのおやつや購入時や行事の時など、お金の支払いなどは意識的に行ってみたり、ご家族との外出の時は、バス・地下鉄などの利用などで、本人へお金を使用する機会をつくるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、友人などの手紙のやりとりや、電話の取次ぎなどを行い、不十分な時は一緒に行い支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り・果物・野菜などを置き、雰囲気作りを心掛けている。	玄関、廊下、居間やそれに接する台所など、落ち着いた雰囲気が漂います。洗濯物の乾燥室は別に設えられ、浴室の脱衣スペースは広々としています。廊下の突き当りには植物の鉢が置かれており、これらの心地良さに職員の家庭的な雰囲気が加わり、居心地が数段良い共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席やソファなどの位置を工夫したり、一人一人が居心地良く過ごせるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただき、長年の生活、こだわりを大事にして生活を送っていただいている。	居室には、利用者の馴染みの家具類や仏壇などが持ち込まれています。収納スペースも広いので、居室もゆったりとしています。ベットや家具、テレビの配置など、家族と共に工夫し、様々な配置により安心の空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・設定はそれぞれの状況に合わせては配慮となっており、トイレ、居間へとできるだけ混乱せず、安全に自立した生活を送れるよう工夫している。		